

114  
A4402  
7

卿

輔

書記官

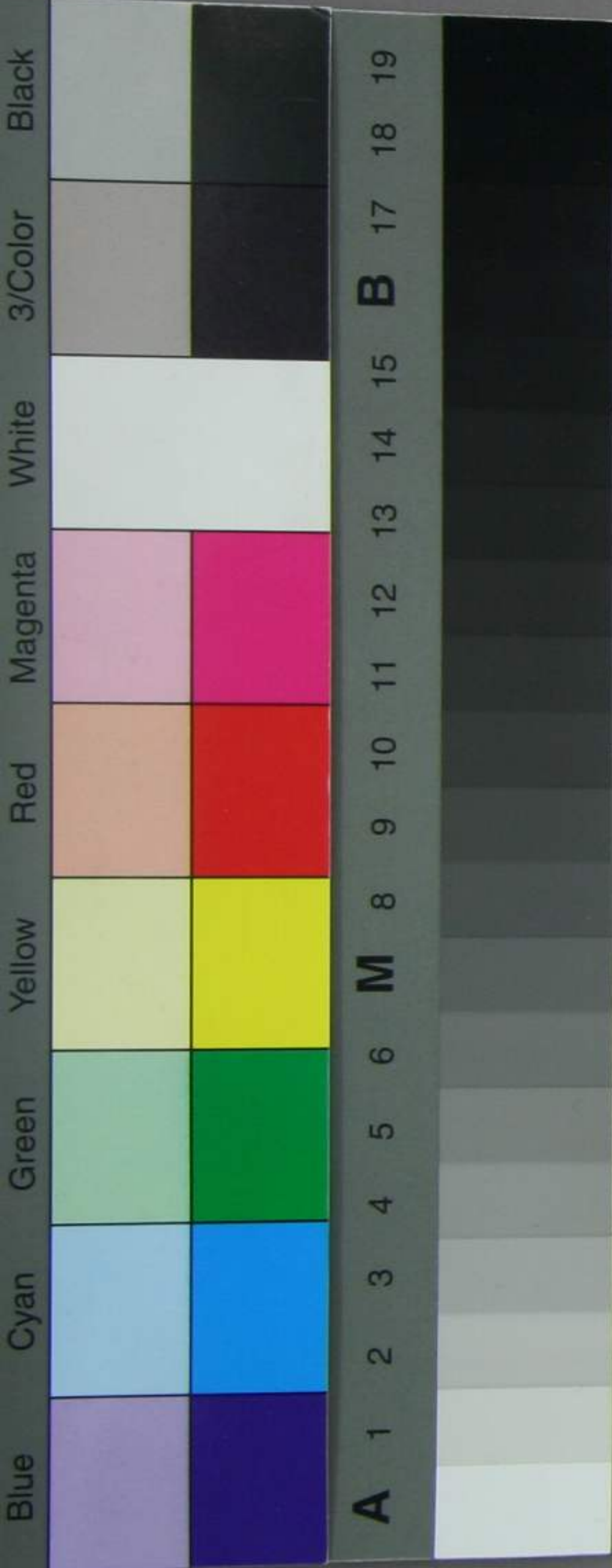


氏ノ為ス所ハ錯誤ニ出テ、更ニ完全ナル公認ニ協フノ事ハ實ニ一般普通ノ利益タルヲ失ハガルトテ証スルニ足レリ

大正十一年 四月十日  
限侯爵邸 贈

工山少書記官 印

夫レ新機械及ヒ新道具ヲ發明セシ者ハ自ラ之ヲ使用スルモ或  
ハ之ヲ他人ニ譲与スルモ自ラ其権ヲ占有スルハ固ヨリ當然ナ  
リ善シヤ手作者ノ工業ニ於テハ一時難滿ヲ生セシテモアルベ  
ケレト然レモ手作者ノ方ニ於テハ自己ノ仕事ノ窘蹙衰頽ニ就  
テ却テ其手作ノ仕事ヲ他處ニ移シ且ツ之ヲ改正スルコトアリテ  
却テ手作仕事ハ繁盛セルアリ即チ機関ニ使用スルニ從テ織工  
印刷者及ヒ諸般ノ工業一切皆チ繁盛ニ至ルハ亦奇ナラスヤ機  
械ヲ使用スルニハ此機械ノ動靜緩急ヲ主宰スルニ須要ナル職  
人アリ又チ其機械ノ需要トナル品類ヲ製造スルニ須要ナル職  
人アリ之ニ由リテ産物ハ増盛シ價直ハ下落シ從テ消費ノ數巨





額ニ上リ其利益タル相連綿シテ津涯アルナク世間一般ニ洽及  
スルモノナリ但シ此際當サテ難澁ナル事件ノ出来スルアル  
モ是ニ只タ一時ノ瑣事ニシテ特トニ一局定ニ止マルモ世ニ漫  
延スルモノニ非ザルナリ猶又タ此等ノ機械ヲ構造スル為ニハ  
新工夫ヲ要スルヲ以テ百工ノ技藝自カラ技派ヲ生セリ例ヘバ  
印書術若シタイポグラフィ寫字者ニ差響キヲ生スルナラバ又タ齊シク其寫字  
者ノ差響キハ印書術ニ波及スヘシ画工ノ為ニ寫真術ニ障碍ヲ  
ナスアラバ亦タ寫真者ノ為ニ画工ニ障碍ヲナスベシ然レモ寫  
真ノ術タルヤ多數ノ料金ヲ取ラザルガ故ニ生計難澁ニシテ充  
分ノ拂方出来ザル者ノ為ニハ更ニ幸福トナレリ且ツ諷寫真者  
ノ使用スル舎窓工ノ品類ニ於テ夥多ノ精煉進歩ヲ計筭セバ  
其利果シテ如何ゾヤ  
錢道アリシ以來従前力作負擔セシ人モ運輸ノ便ヲ得タリシ且

ツ之レニ加フルニ今日ニ在リテ使用スル馬ノ數モ錢道ノ為ニ  
従前ニ二陪セリ東京横濱間ノ錢道設立以來右兩地間ニ於ケル  
人民及ヒ商業荷物ヲ運輸スル為ニ數多ノ人馬ヲ用ユルハ疑ヲ  
容レザル所ナリ但シ人ノ目撃スル如ク獨リ東海道ノミ従前ノ  
景況ナキノミ然レモ兩停車場ノ近傍是ニ兩街ニ於テハ然ラザ  
ルナリ佛蘭西ニ於テ右同様ナル事件アリテ其結果ハ大ニ此ノ  
如キノ比ニ非ザルナリ其土地ヲ平坦ニナス為メ土工、壁工、及ヒ  
器械師等ノ給俸ノ為ニ數百萬元ヲランクヲ費用セリ  
若シ佛國ノ職人輩今漸ク手ヲ出ス、垂シタル經濟ノ初歩ヲ  
思考スルアラバ諸事余ガ云フ所ニモ皆其利益トナルヲ會得ス  
ヘシ即チ機械ノ術ニ由リテ價廉ニシテ衣服價直ノ昂上セシ  
節ハ彼等屢々節減セシヤラユヤヲ調ヘ印書術ニ由リテ其書籍  
ヲ刊行シ教育ヲ進メ其智ヲ改良シ及ヒ錢道ニ由リ遠隔ノ地ニ



於テ其親族ヲ訪見スニ多費ヲ要セス屢々來往スルノ便ヲ得ルハ固ヨリ熟思ヲ待タザンナリ

經濟上ニ付キ總括シテ之ヲ一ハ機械ノ利益ニ於ケル二個ノ原理アリ

(第一)機械ハ其働カタル他ノ手足ノ働カザリモ少ナクシテ之レト相齊シキ功蹟ヲ生ズベシ

(第二)機械ハ其働カタル他ノ手足ノ働カト相齊シクシテ之レヨリモ多キ功蹟ヲ生ズベシ

此兩個ノ例ニ於テ遍ク資財ノ増減スルアルヲ見ル即チ勞カ少ナクシテ所産相齊シク勞カ相齊シクシテ所産増多ス

第一ノ例ニ於テハ時刻ト働カヲ剩餘シ之レヲ以テ自他ノ須要ナル方法ニ於テ使用シ得ベシ第二ノ例ニ於テハ多ク所産ヲ得之レニ由リテ諸般ノ需用ヲ充足スベシ

之レニ由リテマルセイユヨリハ旅行スルニ其里程馬車ヲ用エルモ七日乃至八日ヲ要ス然ルニ今余輩唯一ノ須要ニ尚ホ六日乃至七日ヲ剩餘スレバ此剩餘セル時日ヲ以テ須要ノ事件ニ用ユベシ且ツ從前ノ時代ニ於ケルヨリ七倍乃至八倍多キノ荷物ヲ從前同様ノ價直ニテ運輸スルヲ得ベシ之レニ由リテ其剩餘ヤシ價直ヲ貯蓄シ以テ之ヲ自他ノ事業ニ使用スヘシ以上ノ諸件ハ經濟上ノ真理ニシテ誣ユベカラザルモノナリ





大  
鼎  
字